

ビュー」を編集部に提案しました。

しかし、それ以前から、「元祖ほろ酔いインタビュー」をされていた人がいたことをうかがいました。それが犬飼さんです。犬飼さん、少しその辺の話をしてください。犬飼 私は「心の花」に入れていただいていた一年目です。名古屋の田中徹尾さんから「鈴鹿の信綱顕彰歌会」の後、懇親会や二次会で幸綱先生と直にお話ができるよ」と誘われて、十一年間、通い続けています。一般の部は先生が三、四百人の選をされます。小中高の部は、ここ数年は頼綱さん、以前は朋子さん、藤島さん、久松洋一さんが担当されていました。会が終わると、ホテルで三重県や鈴鹿市の皆さんたちと円卓を囲んでの懇親会です。その後の会は、白子駅前小さな居酒屋で七、八人から十人くらいが参加します。私は高校の教員で小説を読むのが好きですから、幸綱先生から河出書房の「文芸」編集部に居られたころの、いろいろな作家たちとの出会い、ふれあいのお話をお聴きするのが楽しくて楽しくてしようがない。

頼綱さんが来られたとき、「この話はこの場だけで終わりにするのはもったいな

い。ぜひ活字にしてほしい」と言ったら、「僕も父から聞くのは初めてです」というお話だったので、「短歌往来」とか「心の花」に載つたらいいなあと、かねがね思っていました。たまたま東京歌会に来ると、歌会の後、中野駅前の居酒屋「赤ひょうたん」で先生を囲んで話をしているのを見て、東京の人は毎月、こんなことができていいなあと思っていました。

去年の鈴鹿での短歌大会の後、「東京歌会の人たちは先生のお話が聴けてうらやましい」という話をしたら、先生から「君、今度、『ほろ酔いインタビュー』をやるから、来いよ」とおっしゃってくださいだったので、「エツ、私なんか何って、いいんですか」ということで、今日、伺いました。すでに誌上参加はしておりますが（2015年・9月号）、本人が参加するのは初めてです。よろしくお願いします。

幸綱 ちよつと補足すると、信綱の命日が十二月三日です。その前後に信綱顕彰歌会を信綱のふるさとである鈴鹿で行っています。そこに毎年、僕が伺っています。すると、名古屋歌会の人たちが集まってくると、その人たちと二次会兼忘年会で鈴鹿

の白子駅の駅前で必ず飲む。その時の話です。ね。

犬飼 三島由紀夫さんとは上半身裸で筋肉の触りっこをしたとか、大江健三郎さんの家に原稿を取りに行ったとか、何回聴いても楽しくて楽しくて。

高山 さらに犬飼さんのご紹介をさせていただくと、「心の花」の校正にとつてはなくてはならない存在です。毎月、われわれが秘かに「犬飼通信」と言っている手紙を送って下さいます。そこでは前号の「心の花」の校正ミスをご指摘いただき、励みにさせていただいています。

幸綱 犬飼君は「心の花」を一番くわしく読んでいる人だねえ（笑）。

森屋 ぜひ一度、校正の日にお越しください。校正係一同、お待ちしておりますので。

高山 犬飼さんは隅から隅まで読んでくださったっているんですね。

犬飼 仲間ですからね。お会いしたことはなくても、ああ、こういう人かなあとか、何となく伝わってきます。名古屋のメンバーも、自分と知り合いの歌だけ読んで、他のは読んでないとか。もったいないなど思うんですけど。